

地域猫活動ガイドライン

野良猫で迷惑している人

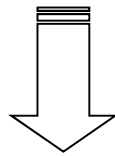
- ふん尿で困っている
- 鳴き声がうるさい
- 猫が増えて困っている
- 食べ残したエサが不衛生である
- ゴミをあさるので困る

かわいそうな猫を助けたい人

- お腹をすかせた猫にエサを与えたい
- 猫が増えるのは困る
- 避妊去勢手術をしたいけどお金がかかる
- 家で飼いたいけど飼えない
- 猫のために何かしたい

野良猫の迷惑を減らしたい

かわいそうな猫を減らしたい



共通の願いは、野良猫を減らすこと！



そこで！

地域猫活動

猫の世話をしつつ、野良猫を減らす方法です。

飼い主のいない猫をかわいそうだと思う方がいる一方で、猫によるふん尿や鳴き声などにより、迷惑している方もいます。エサを与える方と、近隣住民との間でトラブルになるケースも見られます。

「地域猫活動」は、このような飼い主のいない猫の問題を「地域の環境問題」として捉え、地域住民と飼い主のいない猫との共生を目指します。

1 地域猫とは

地域の理解と協力を得て、地域住民の認知と合意が得られている、特定の飼い主のいない猫を「地域猫」といいます。「地域猫」の不妊手術を行った後も、地域猫が寿命を全うするまで「地域猫活動」は続きます。

2 不妊手術を行う

飼い主のいない猫は、交通事故や感染症などの危険にさらされており、寿命は4～5年と言われています。地域のすべての飼い主のいない猫に不妊手術を行えば、だんだんと数が減っていくこととなります。

また、手術をすることにより性質がおとなしくなり、発情期の鳴き声やマーキングによる被害の減少も期待できます。

手術を施した飼い主のいない猫には、未実施の猫と識別するために耳をV字カットして印をつけます。耳のV字カットは手術時の麻酔中に行われます。

3 ふん尿の被害を減らすために

周辺住民の理解が得られる場所に猫のトイレを用意し、ふん尿の被害を減少させましょう。定期的にパトロールなどを行い、トイレ以外の排泄物も処理、清掃しましょう。

4 エサやりのマナー

地域の方々に説明し、ご理解をいただいて、エサ場を決めます。

エサは決まった時間に、適切な量を与え、食べ終わったらその場ですぐに片付けましょう。エサを置いたままにしておくことは、不衛生な上、カラスや地域猫以外の猫が集まるなど、ご近所とのトラブルのもととなります。エサ場の周辺は常に清潔が保たれるよう、配慮をしましょう。

5 譲渡に向けた取組を行う

地域猫を地域ですっと管理するだけでなく、室内で飼育してもらえる新しい飼い主を見つけ、飼い猫にしていくことをすすめましょう。「地域猫」を「飼い猫」にしていくことも大事な活動の一つです。

地域猫活動のながれ

1 活動グループの結成

地域猫活動を行うにあたって、活動地域に居住する代表者を中心として、地域の人3名以上を含むグループを作りましょう。

2 活動地域の猫の現状の把握・対象猫の特定

地域猫にしていこうとする猫が何匹いて、それぞれがどのような特徴を持った猫なのか、猫によるトラブル・問題も含め、現状や対象となる猫を把握しておきましょう。

3 活動ルールと計画を作成

地域の合意・理解を得るためにも、活動のルールを作りましょう。ルールには、エサやり・ふん尿の処理などの場所・方法などを決めるほか、グループ内で役割分担等を決め、無理なく活動が継続できるような計画を作りましょう。

4 地域住民に説明、同意を得る

地域猫活動の実施には周辺住民の理解が必要であり、地域の合意・理解は不可欠で最も大切なことです。周辺の人々に十分に趣旨を説明し、理解を得た上で活動を行っていきましょう。自治会がある地域は自治会などで話し合いましょう。

5 地域への活動の周知を行う

地域で活動を行うことを、より多くの方に知ってもらうことも必要です。大々的に公表するといったことではなく、地域内で知らずに外飼いの猫が手術されることがないようにするためです。地域の中には、飼い猫を屋外で飼育している方もいるかもしれません。不妊手術を実施しようとする猫が飼い猫ではないか、事前に回覧板や掲示板などで周知することも必要です。

実際に飼い猫を無断で手術してしまい、トラブルになることもあります。

6 猫の捕獲、不妊手術の実施

猫は早ければ生後6カ月で性成熟し、メス猫は1回に平均5匹、1年で最大3回子猫を産みます。地域猫活動には不妊手術は不可欠です。手術前には、飼い猫ではないか、所有者の有無を確認するようにしてください。手術済みの猫には個体識別のため、耳にV字カットを施しましょう。ただし室内飼育することが決まっている猫についてのV字カットは任意です。

7 飼育管理の実施・継続

水場・エサ場・トイレは地域住民の理解が得られる場所に設置し、管理しましょう。また、世話をしている猫の数、個体識別、健康状態などを、表などを作って把握しましょう。

8 猫の譲渡

猫を室内で飼育してもらえる新しい飼い主を探す努力をしましょう。地域猫を飼い猫にすることでより早く飼い主のいない猫を減らせるとともに、猫にとってもより良い環境で生きていくことが可能になります。

新しい飼い主へは、地域猫であったことやその習性、留意事項を正しく伝えるとともに、終生飼育および適正飼育に関する情報提供を行きましょう。

9 苦情等への対応

地域猫活動について、全ての方が好意的というわけではありません。活動地域内の住民から猫による苦情があった際には、活動グループの方は誠意をもって対応し、必要に応じて相互に話し合いをもちましょう。

地域猫活動の不妊手術費補助金交付について

枚方市では、一定の要件を満たした地域猫活動を行う場合、あらかじめ地域猫活動届出書等を提出していただき、書類審査した上で補助金を交付いたします。補助金の交付を受けるには要件を満たす必要がありますので、必ず事前に相談をお願いします。

1 補助金交付額

オス 15000 円/匹・メス 20000 円/匹です。(手術費用が交付額に満たない場合は実際にかかった額となります。)

2 補助金の交付を受けるための要件

世帯の異なる3名以上のグループ(最低3名は地域猫活動をする地域にお住まいの方)を作り、地域猫活動届出書、活動ルール及び計画書、地域猫一覧表、地域猫活動承諾書、枚方市地域猫不妊手術費補助金交付申請書等に必要事項を記入してください。

必要事項として、エサ場の住所、トイレの設置場所、管理する猫の一覧表、自治会長等の承諾などがあります。

※地域猫活動承諾書にある自治会長等の署名の代わりに、自治会で説明を行ったことがわかる議事録(自治会長等の署名入り)でも可能です。

※地域猫活動の届出の際に、自治会長等に確認させていただくことがあります。